図画工作／美術　**造形的な見方・考え方を働かせ，創造活動の学びを深める授業づくり**

授業改善のポイント　学びの深まりの鍵となる**「造形的な見方・考え方」**を働かせるため，**児童生徒自身が「造形的な視点」を意識しながら活動できるようにする**ことが大切です。

題材のあらゆる場面で，**「造形的な視点」を生かした支援**を充実させましょう。例えば次のような支援が考えられます。
A 造形的な視点を意識することができる学習課題やめあてを，考え方の例を引き出して確認するなどして設定する。
B 表現を試す，考えを交流するなど，造形的な視点で対象や事象を捉える場を充実させる。
C 表現や鑑賞の能力を発揮している児童生徒の姿を，造形的な視点で見取り，意味付けたり，価値付けたりする。
D 造形的な視点で活動のよさを捉え伝えたり，造形的な視点を基にした振り返りの視点を示したりする。

【題材例】小学校　第４学年「木から生まれる私の形」（造形遊び）

Ｔ：教師
Ｓ：児童

下線部は，**A**～**D**の支援により，造形的な見方・考え方を働かせ，思いや考えを基に創造することに向かう児童の姿です。

導入
Ｔ：木を切ったり釘を打ったりして，どんな形ができるかな。**A**
材料や用具はここに用意しているから，いろいろ試してみてね。**B**
Ｓ１：様々な形ができそうだな。どんな形ができるか，いろいろやってみよう。つくりかえることもできるんだな。

展開①
Ｓ１：曲げてつなぐと面白い形ができるぞ。動物の腕のようだなぁ･･･そうだ，怪獣をつくろう！

発想や構想

展開②
Ｓ２：○○さんの作品は，何か動いているように感じるなぁ。
Ｓ１：釘の高さを少しずつ変化させているからじゃないかな。
Ｔ：釘の使い方を工夫して，動きを生み出しているんだね！**C**
Ｓ１：釘は，木をつなぐだけじゃないんだな。怪獣の背中にも使えそうだ。

B

鑑　賞

①～③は，活動の順序性ではありません。「つくり，つくりかえ，つくる」という学習過程を重視します。

展開③
Ｔ：釘をいっぱい打ち込んでいるね。**C**
Ｓ１：釘の高さを変えて怪獣の背中のようにギザギザにしました。
Ｔ：腕や足の形もよく思い付いたね。
Ｓ１：腕や足は，釘が関節になって動かすことができるんですよ。
Ｔ：よく工夫しているね。

創造的な技能

終末
Ｔ：思い付いた形を表すために，どんな工夫をすることができましたか？**D**
Ｓ１：腕や足のようにするために，木と木を曲げてつなぎました。
釘を打ち込む高さを変えて，怪獣の背中を表しました。

次の学びへ
Ｓ１：すごい怪獣をつくることができたぞ！もっとやりたいなぁ！

「造形的な見方・考え方」とは，「感性や想像力を働かせ，対象や事象を，形や色などの**造形的な視点**で捉え，自分のイメージをもちながら（自分としての）意味や価値をつくりだすこと」であると考えられます。※波線は小学校，（括弧）は中学校